

▶ まちの将来像のキーワードやイメージ

分科会 第1分科会

まちの将来像のキーワード	その他コメント
活気のあるまち 人口が増加するまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩出市は人口構成で若者が多いなどと比較すると、紀の川市は人口が減っているため、人口を増やす取り組み（子どもが生まれたときから徹底してサポートできる仕組み）が必要である（長期総合計画で「人口」を柱の一つとしてもよい）</li> <li>・ 和歌山県（紀の川市を含む）は労働人口を東京や大阪などの大都市に輩出してきたため、個人的には若者が出て行ったとき、高齢者を受け入れたときなどは国から費用的な援助があっていいと思う</li> </ul>
若者が増えるまち 子育て支援が充実しているまち 若い母親が安心して生活できるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大人になると紀の川市を出て行ってしまうため、若者の流出を食い止め増加させなければいけない</li> <li>・ 紀の川市には自然があり、よい子が育つ環境が整っているため、強みを活かし「よい子が育つ」まちにしてほしい（それが子育て支援に繋がる）</li> <li>・ 子どもが生まれた後の母親のサポートを長くやっていくべき（ネウボラのような支援）それが若い母親の安心に繋がる</li> </ul>
コミュニティがつくれるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで既述してきた内容はコミュニティの基盤がなくては達成できないが、旧町単位で取り組むのも違う。（小学校の学区は PTA や一緒に子どもを育ててきたため結束が強いので、そのコミュニティでいろんな協働などを考えるのがいいと思う 例：川西市、福津市のような）。</li> <li>・ コミュニティを大切にできるまちにしたい</li> <li>・ これ以上予算カットが続くと活動が継続できないため、コミュニティ活動の一つとして、団体の意見をしっかり活かしてほしい</li> </ul>
社会的弱者に魅力（特色）があるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩出市で若い者が増加しているが、同じような施策に取り組んで争っても意味がない（例えば、社会的弱者（子どもや高齢者などを含む）に紀の川市は特色を持ち、その層には岩出市から人口を奪えるくらいでないといけない）</li> </ul>

▶ まちの将来像のキーワードやイメージ

分科会 第2分科会

まちの将来像のキーワード	その他コメント
一体的に力を合わせたまち	・ 5町、それぞれたくさんの資源がある
地域の力を合わせたまち	・ ボランティアや地域の人々と手をとって
働く場所のあるまち	・ サラリーマンとして働く場所がない
交通の便	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内を行き来する、また市外へ行く交通の便がよくなるとよい</li> <li>・ 京奈和道などもでき、車は便利だが車を運転しなくなってからが不便である</li> </ul>
商業施設の充実	・ 市内の飲食店が少ない

▶ まちの将来像のキーワードやイメージ

分科会 第3分科会

まちの将来像のキーワード	その他コメント
世代間交流 コミュニティ 持続可能なまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世代間交流が活発で、若者がいきいきとした持続可能なまちづくり</li> <li>・ 若者が活躍できるようなコミュニティを確立する</li> <li>・ 持続可能なまちとするため財源を意識したコンパクトシティを構築する（効率的なハード整備をする）</li> </ul>
農業 フルーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紀の川市は交通の便が悪い、商業施設が少ないが、交通の便がよくて商業施設が多いところに住みたいのであれば別のまちに住めばよいと思う</li> <li>・ 和歌山県内における紀の川市の位置づけや役割があるため現在の紀の川市のよさを活かす</li> <li>・ 工業も発展してきているが、紀の川市のメインは農業（特にフルーツ）である（切り口を決めて（絞って）例えば、農業の最先端を知るなら紀の川市、日本の代表的なフルーツを作り食べるなら紀の川市など）</li> </ul>
若者と高齢者が共に 幸せに暮らせる いきいき 夢 力を合わせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行計画の将来像である「いきいきと力をあわせたまちづくり 夢あふれる紀の川市」はこの先もまちのキャッチフレーズとして掲げ続けることができる表現である</li> <li>・ 若者と高齢者が共に幸せに暮らせる関係を構築する</li> </ul>
四季折々のフルーツ産地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四季折々のフルーツの産地である（ただし、基盤整備は最大の課題である）</li> <li>・ 紀の川市の土地を活かしてフルーツに特化する（土地柄フルーツに特化せざるをえない）</li> <li>・ 1人当たりのフルーツの消費量は減少傾向にあるため、フルーツの需給状況に合わせた生産体制を構築する</li> <li>・ 人口減少は避けられず、活力の低下が懸念されるため、市外から遊びに来てもらえるような工夫が必要である</li> </ul>
紀の川市らしさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行計画の将来像である「いきいきと力をあわせたまちづくり 夢あふれる紀の川市」は10年前も30年後もまちの将来像として掲げ続けても遜色ないものである</li> <li>・ 「紀の川市らしさ」に共通認識が必要であるため、「紀の川市らしさ」を表現できるようなフレーズにする</li> </ul>

➤ 現行計画の検証作業の共有と課題抽出

分科会 第1分科会

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
1 協働 ともに参加 し行動する まち	1-1 協働・市民 交流	1-1-1 市民と行政のし くみづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民に分かりやすい仕組みづくりといった目標が必要である</li> <li>・ 現在の市民と行政協働の仕組みは、市民にとっても分かりにくい部分が多い</li> <li>・ 市民に伝わっていない内容が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目指す姿が、「市民と市の協働のまちづくりを進めています」とあるが、市民と行政には垣根がある</li> </ul>
		1-1-2 市民活動の育成 支援と国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際交流の取り組み状況を確認する指標として参考指標の「中学生国際交流派遣人数」はだけで把握できないため、市民の立場から考えると、中学生よりも高校生の指標のほうがより実態が把握できる</li> <li>・ 企業における海外派遣などの国際交流の取り組みは市役所を通さずに企業が直接行っているところが多く、市を経由することのメリット（特典など）をつくることで、市内の国際交流の状況を正確に把握する方法を検討する必要がある</li> <li>・ 国際交流は、個人のインバウンドをどう取り込むかを考え、そこから情報発信をしてもらうようにすべきである</li> </ul>	
		1-1-3 コミュニティ活 動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民のニーズと本当に合致したコミュニティ活動の支援が行えているのだろうかかわからない</li> <li>・ 市民の考え、ニーズを収集する方法をもっと考</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花いっぱい運動はしっかり補助金ももらうことができるよい活動だと思う</li> </ul>

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
			<p>える必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もっときめ細かな対応がなければ、コミュニティ活動は広がらない</li> <li>・ コミュニティ活動を充実させていくためには、その存在を行政がもっと伝えていく必要がある（告知の方法を考える必要がある）</li> <li>・ 紀の川市を知っているかを尋ねると、知らないという人が多いため、お祭りなどにもっと参加してもらうためには、市のイベントなどを外に対してもっとプレゼンしていくべきである</li> <li>・ 旧町時代のままのお祭りを続けてもだめであるため、お祭りの形を変えていく必要がある、また、市民のモチベーションも低く、官製お祭りになっている</li> </ul>	

➤ 現行計画の検証作業の共有と課題抽出

分科会 第2分科会

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
2 人づくり	2-1 医療・保健・福祉	2-1-1 地域医療体制および救急医療体制の充実	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那賀病院では夜間診療をやってくれているので、市民サービスが充実していると感じる。ぜひ継続してほしい</li> <li>・ 全般的に医療体制はきちんとしている印象がある。悪い印象はない</li> <li>・ (その他) 保育料は国基準となっているかどうかを知りたい</li> </ul>
		2-1-2 健康づくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康診断はもう少し期間が長ければ、さらにあるがたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策全体としては、非常によくやっている</li> <li>・ 健康診断は支所・本庁でそれぞれ受けることができるので、網の目（セーフティネット）のようになっている、健診を受けたい人にとっては良い仕組みではないか</li> </ul>
		2-1-3 障がい者自立支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者団体については、合併後、社協から障害福祉課が事務局業務を持つようになり、サービスが低下した（きめ細やかさが低下）。</li> <li>・ 障がい者は移動が困難である。社協のときのほうが、移動（バスや送り迎え）に関して柔軟に対応してくれていた印象がある</li> </ul>	・

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
		2-1-4 高齢者福祉サービスの充実、介護予防の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度改正によって要支援1、2の人に対するケアは地域（基礎自治体や地域）におりてきているため、今後はボランティアの育成が重要となってくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策全体としては、非常によくやってくれている</li> <li>高齢者の健康体操（理学療法士の事業）はよくやってくれている（DVD制作などもしており、啓発はきちんとしてくれている）</li> <li>福祉の窓口の職員も非常に感じがよく、活気がある印象である</li> <li>ボランティアは、特別なことをするのではなく、自分のできる範囲のことから始めていくことが重要である</li> </ul>

➤ 現行計画の検証作業の共有と課題抽出

分科会 第3分科会

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
3 基盤づくり	3-1 都市基盤	3-1-1 計画的な土地利用と都市基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の農地法による制約があり、人口増加につながる宅地造成ができていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能なまちづくりの観点からのコンパクトシティ</li> <li>用途地域の指定には個人の利害が絡む</li> </ul>
		3-1-2 公共交通網の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路網は整備されてきているが、公共交通は充実していない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>
		3-1-6 災害に強い安全なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家の増加に伴う空き家対策が必要</li> <li>危険ため池の整備を地元で費用負担し対応しているが、農家に負担がかかり対応できなくなっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>
		3-2-2 魅力と個性ある便利な商業環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道沿い以外、商業施設は少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>
	3-2 農業・産業振興	3-2-3 活力農業と食のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民は農業に対する危機感がなさすぎる（農業に対する危機感が共通認識されていない）</li> <li>ため池や排水や用水路などの基盤整備が十分ではない、災害対応も不十分である</li> <li>耕作放棄地が増えている</li> <li>四季折々のフルーツの産地であり、関西圏では</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定農業者に土地を貸しているため集約できていると錯覚している</li> <li>ブランド化には時間（最低でも10年程度）が必要であり、ブランドは生産・流通の後についてくるものである</li> <li>ほ場整備、土地集約とも和歌山県は進んでいな</li> </ul>



政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
			<p>産地であることが認知されつつあるため、今後さらに情報発信して広めていくことが必要である（大阪エリアに生産したフルーツを運ぶための交通整備が必要である）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業をするためのエリア（農業地帯）は必要であるが、一方で人口を増やすためには転用しやすくしておく必要がある</li> <li>・ 農業の担い手・後継者が不足している</li> <li>・ 農地の集約化が進んでいないが、農地を宅地として売りたい人も多く、ほ場整備に反対する人もいる</li> <li>・</li> </ul>	<p>い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効果的な施策が展開できればフルーツの産地として成り立つ</li> <li>・ 国の農業施策や成功事例が全て当てはまるとは限らない</li> </ul>
		3-2-4 魅力ある田園観光交流のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光は市単体ではなく、広域で取り組む必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日帰り（1日）コースの設定が難しい</li> </ul>
5 行財政	5-1 行財政運営	5-1-1 効率的・効果的で健全な行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政も地域も財政的な視点が必要（持続可能なまちづくり）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
その他			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度策定した総合戦略の取り組みとの整合性を考慮する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>